

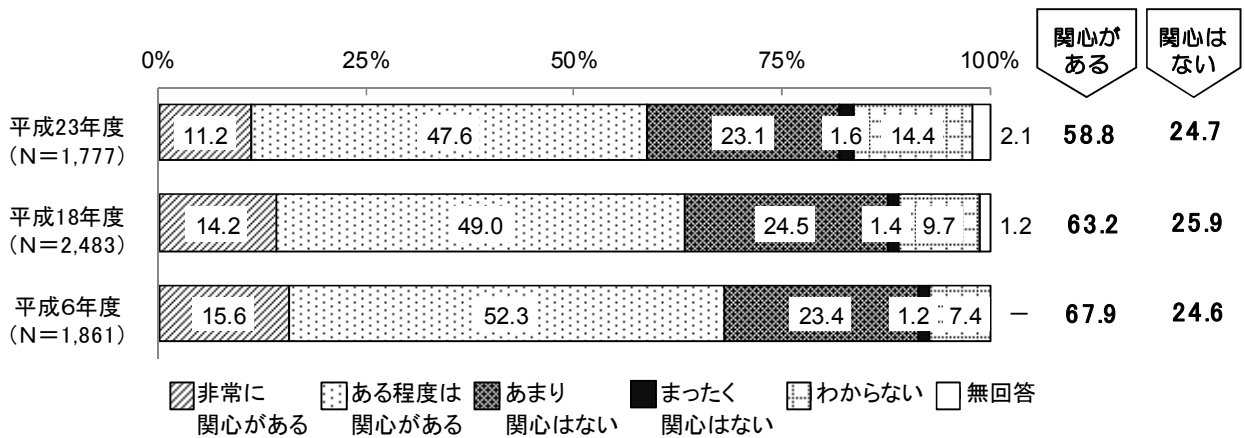
# 第5章 障害者福祉

## 5－1 障害者福祉に対する意識

### (1) 関心度

障害者福祉に『関心がある』人が6割弱。過去の調査結果と比較すると、『関心がある』割合は減少傾向、『関心はない』割合は横ばいで、「わからない」という人が増加している。

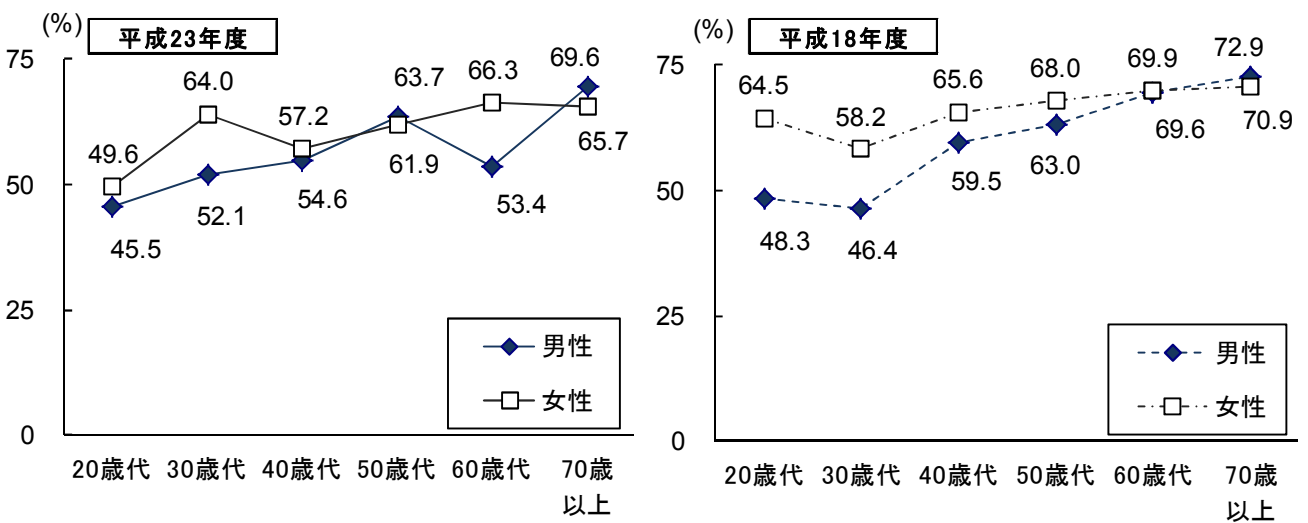
問 28 あなたは、障害者福祉に関心を持っていますか。(あてはまる番号に1つだけ○印)



■ 図5－1 性別・年齢別にみた、障害者福祉に『関心がある』割合

◇ 障害者福祉に『関心がある』割合は、男性は50歳代と70歳以上、女性は30歳代と50歳代以上で6割を超えている。

◇ 平成18年度調査と比較すると、『関心がある』割合は男性60歳代、女性20歳代で特に減少している。





◆属性別特徴

【性別】障害者福祉に『関心がある』割合は男性より女性の方がやや高い。

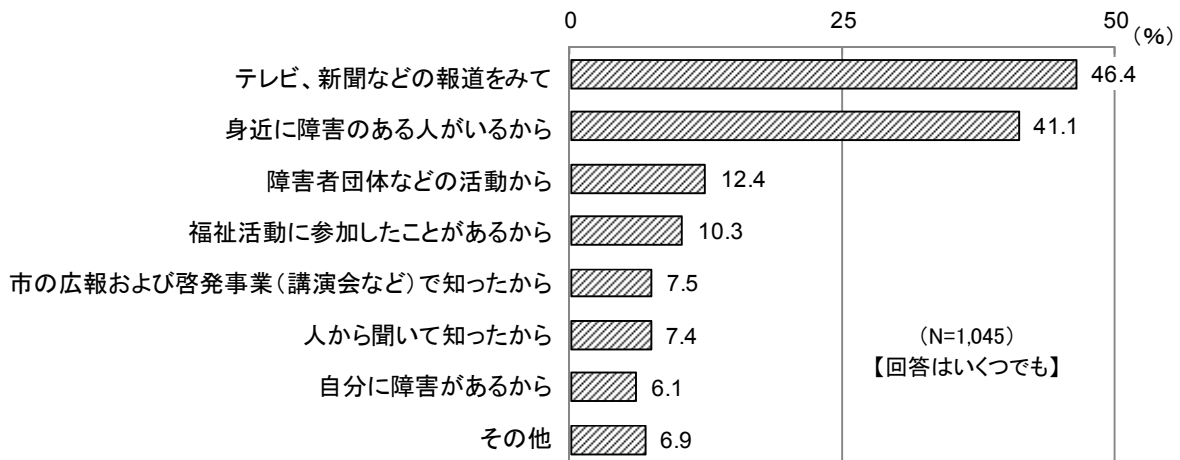
【年齢別】「非常に関心がある」割合は70歳以上でやや高い。「わからない」割合は20歳代で2割を超えている。

【ブロック別】地域別で回答傾向に差は見られない。

	標本数 (票)	障害者福祉への関心度 (%)					
		が非常 に関心 あるに 関心	関あ 心る が程 あ度 るは	はあ なま いり 関 心	心ま はつ はな いく 関	わ か ら な い	無 回 答
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,777)	11.2 ( 199)	47.6 ( 846)	23.1 ( 411)	1.6 ( 29)	14.4 ( 255)	2.1 ( 37)
性別							
男性	826	12.0	44.3	24.3	2.5	14.4	2.4
女性	951	10.5	50.5	22.1	0.8	14.3	1.8
年齢別							
20歳代	215	8.4	39.5	21.4	3.3	26.0	1.4
30歳代	292	10.6	47.6	21.9	0.7	15.8	3.4
40歳代	319	9.4	46.7	25.7	3.4	12.9	1.9
50歳代	357	11.2	51.5	23.5	0.8	12.3	0.6
60歳代	403	11.4	48.1	24.3	0.5	12.4	3.2
70歳以上	191	17.8	49.7	19.4	2.1	9.4	1.6
性別×年齢							
男性:20歳代	90	3.3	42.2	18.9	6.7	27.8	1.1
男性:30歳代	142	12.7	39.4	23.9	0.7	21.1	2.1
男性:40歳代	132	11.4	43.2	26.5	3.8	12.9	2.3
男性:50歳代	160	13.1	50.6	23.1	1.9	10.6	0.6
男性:60歳代	210	11.0	42.4	28.1	1.0	12.4	5.2
男性:70歳以上	92	20.7	48.9	20.7	4.3	4.3	1.1
女性:20歳代	125	12.0	37.6	23.2	0.8	24.8	1.6
女性:30歳代	150	8.7	55.3	20.0	0.7	10.7	4.7
女性:40歳代	187	8.0	49.2	25.1	3.2	12.8	1.6
女性:50歳代	197	9.6	52.3	23.9	-	13.7	0.5
女性:60歳代	193	11.9	54.4	20.2	-	12.4	1.0
女性:70歳以上	99	15.2	50.5	18.2	-	14.1	2.0
ブロック別							
東部A	132	9.8	49.2	28.8	2.3	9.8	-
東部B(田主丸)	125	9.6	49.6	25.6	0.8	13.6	0.8
北部A	161	8.7	54.0	18.6	1.9	15.5	1.2
北部B(北野)	112	12.5	43.8	23.2	0.9	15.2	4.5
中央東部	219	13.7	49.3	23.3	1.4	10.5	1.8
南東部	190	10.0	49.5	21.6	1.1	16.3	1.6
中央部	230	10.0	47.8	19.6	2.2	16.5	3.9
中央南部	289	13.1	48.1	20.1	1.4	16.3	1.0
南西部	154	11.0	44.2	25.3	2.6	13.6	3.2
西部A(城島)	70	7.1	51.4	28.6	1.4	10.0	1.4
西部B(三潴)	95	14.7	29.5	32.6	2.1	16.8	4.2

障害者福祉に関心を持った理由は「報道を見て」と「身近に障害のある人がいるから」が特に多い。

問 28 付問 1 **問 28 で 1 または 2 に回答した人に** あなたが、障害者福祉に関心を持って  
いるのは、どのような理由からですか。(あてはまる番号にいくつでも○印)



◆属性別特徴

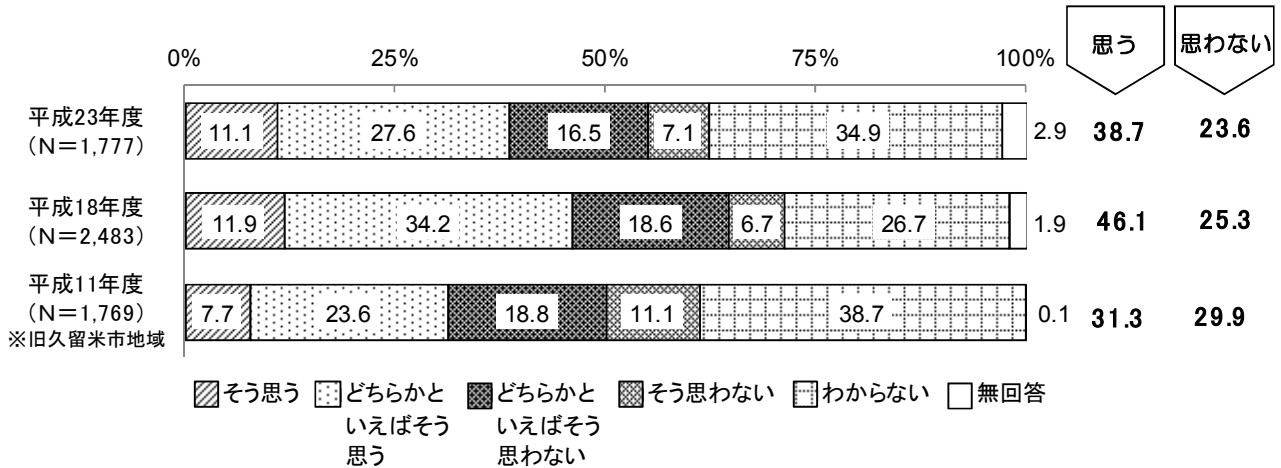
- 【性別】性別では特に差が見られる項目はない。
- 【性別・年齢別】「市の広報および啓発事業で知ったから」は男性 60 歳代と女性 70 歳以上で割合が高い。
- 【ブロック別】「福祉活動に参加したことがあるから」は西部B、北部Bで他の地域と比べて高くなっている。

	標本数 (票)	障害福祉に関心をもっている理由 (%)								
		のテ レ ビ を み て 新 聞 な ど	ど し 業 界 の 報 道 を 知 つ た か ら	市 の 広 報 お よ び 啓 発 事 業 で 知 つ た か ら	活 動 者 団 体 な ど の か ら	た 福 祉 と 活 動 に あ ら し ま る か ら	か 自 ら に 障 害 が あ る か ら	人 身 が 近 い に 障 害 か ら あ る か ら	た 人 か ら 聞 い て 知 つ た か ら	そ の 他
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,045)	46.4 ( 485)	7.5 ( 78)	12.4 ( 130)	10.3 ( 108)	6.1 ( 64)	41.1 ( 430)	7.4 ( 77)	6.9 ( 72)	0.9 ( 9)
性別										
男性	465	45.2	7.7	14.4	10.8	6.9	39.8	7.3	6.5	1.7
女性	580	47.4	7.2	10.9	10.0	5.5	42.2	7.4	7.2	0.2
性別×年齢										
男性:20歳代	41	48.8	2.4	12.2	12.2	2.4	34.1	4.9	4.9	-
男性:30歳代	74	37.8	5.4	13.5	14.9	13.5	43.2	8.1	5.4	2.7
男性:40歳代	72	48.6	5.6	12.5	8.3	1.4	36.1	6.9	9.7	1.4
男性:50歳代	102	46.1	5.9	13.7	10.8	7.8	39.2	6.9	7.8	2.9
男性:60歳代	112	49.1	13.4	15.2	7.1	6.3	39.3	8.0	4.5	0.9
男性:70歳以上	64	39.1	9.4	18.8	14.1	7.8	45.3	7.8	6.3	1.6
女性:20歳代	62	40.3	-	11.3	11.3	4.8	35.5	3.2	14.5	-
女性:30歳代	96	41.7	9.4	10.4	16.7	3.1	45.8	11.5	5.2	-
女性:40歳代	107	40.2	2.8	8.4	9.3	3.7	47.7	6.5	9.3	0.9
女性:50歳代	122	45.9	10.7	9.0	8.2	4.9	41.8	7.4	9.8	-
女性:60歳代	128	53.9	5.5	11.7	7.8	8.6	44.5	8.6	2.3	-
女性:70歳以上	65	64.6	15.4	16.9	7.7	7.7	30.8	4.6	4.6	-
ブロック別										
東部A	78	44.9	6.4	12.8	7.7	3.8	41.0	12.8	6.4	2.6
東部B(田主丸)	74	35.1	10.8	8.1	9.5	4.1	45.9	6.8	9.5	1.4
北部A	101	46.5	5.0	13.9	13.9	6.9	40.6	5.0	7.9	-
北部B(北野)	63	36.5	7.9	17.5	20.6	3.2	36.5	6.3	12.7	1.6
中央東部	138	42.8	6.5	12.3	6.5	10.1	37.0	4.3	5.1	-
南東部	113	55.8	4.4	15.9	7.1	6.2	46.9	6.2	3.5	0.9
中央部	133	45.9	11.3	8.3	9.8	8.3	38.3	7.5	5.3	0.8
中央南部	177	50.8	6.8	14.1	8.5	4.0	40.7	5.6	9.6	0.6
南西部	85	52.9	12.9	11.8	10.6	8.2	41.2	14.1	5.9	2.4
西部A(城島)	41	43.9	7.3	12.2	12.2	-	46.3	12.2	4.9	-
西部B(三瀨)	42	42.9	-	7.1	21.4	7.1	45.2	7.1	4.8	-

(2) ノーマライゼーションの考え方を活かしたまちづくりについて

4割弱の人が久留米市は「ノーマライゼーション」の考え方を活かしたまちづくりをしていると評価。「わからない」という割合が3割を超えている。

問 29 久留米市は、「ノーマライゼーション」の考え方を活かしたまちづくりをしていると思いますか。(あてはまる番号に1つだけ○印)



◆ 属性別特徴

- 【性別】「わからない」割合は男性より女性の方がやや高い。
- 【性別・年齢別】「そう思う」割合は男性、女性ともに70歳以上で高い。一方、「そう思わない」割合は男性40歳代以下でやや高くなっている。
- 【障害者福祉への関心度別】「そう思う」という割合は、障害者福祉について関心がある人の方が高くなっている。

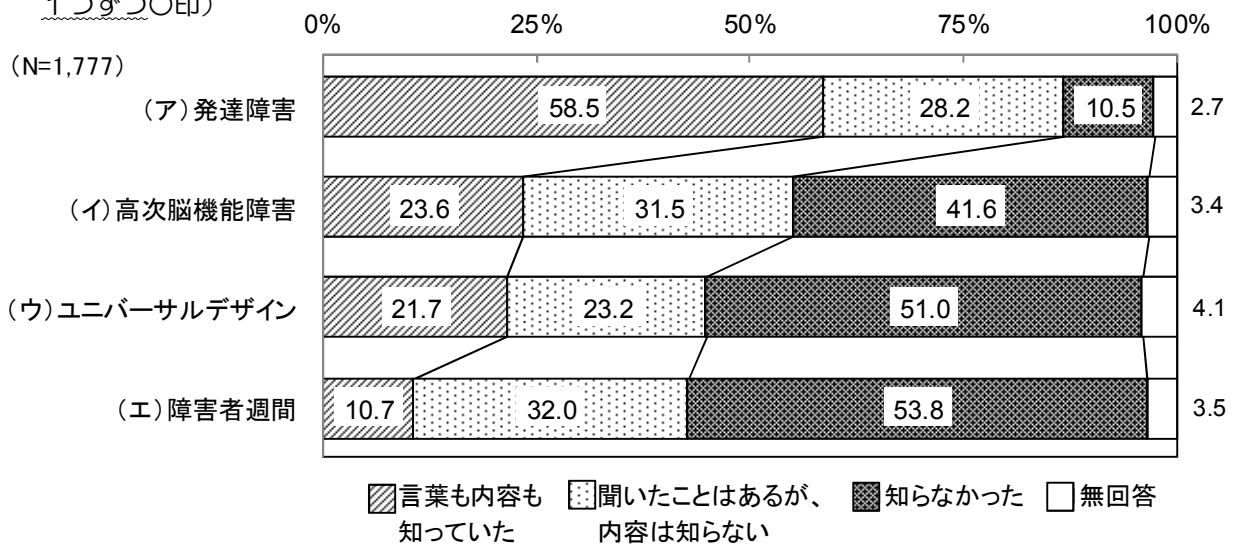
	標本数 (票)	久留米市はノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしていると思うか (%)					
		そう思う	えどばち そら うか 思と うい	なえど いばち そら うか 思と わい	そう 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,777)	11.1 (197)	27.6 (490)	16.5 (293)	7.1 (126)	34.9 (620)	2.9 (51)
性別							
男性	826	12.2	26.5	16.7	9.1	32.8	2.7
女性	951	10.1	28.5	16.3	5.4	36.7	3.0
性別×年齢							
男性:20歳代	90	13.3	24.4	11.1	16.7	33.3	1.1
男性:30歳代	142	14.1	23.9	14.1	12.7	33.1	2.1
男性:40歳代	132	6.8	22.0	20.5	14.4	34.1	2.3
男性:50歳代	160	10.0	32.5	15.0	7.5	34.4	0.6
男性:60歳代	210	11.9	26.7	17.6	4.8	33.3	5.7
男性:70歳以上	92	20.7	28.3	21.7	1.1	26.1	2.2
女性:20歳代	125	5.6	24.8	20.8	7.2	39.2	2.4
女性:30歳代	150	9.3	23.3	17.3	8.7	36.7	4.7
女性:40歳代	187	11.2	27.3	17.1	3.2	39.0	2.1
女性:50歳代	197	7.1	34.0	19.3	6.1	31.5	2.0
女性:60歳代	193	11.4	33.7	13.0	3.1	37.3	1.6
女性:70歳以上	99	18.2	22.2	8.1	5.1	38.4	8.1
障害者福祉への関心度別							
関心がある	1,045	14.9	32.2	19.0	7.3	25.6	1.0
関心はない	440	5.2	26.1	17.7	7.5	42.3	1.1
わからない	255	6.3	14.5	5.9	6.3	63.9	3.1

「ノーマライゼーション」…「障害のある人もない人も、ともに生きていくことができる社会こそ普通の社会であり、障害のある人も職場で一緒に働いたり、地域活動やいろいろな催し物にも参加し、行動できるようにすべきである」という考え方を指します。

(3) 障害者福祉に関する言葉の認知

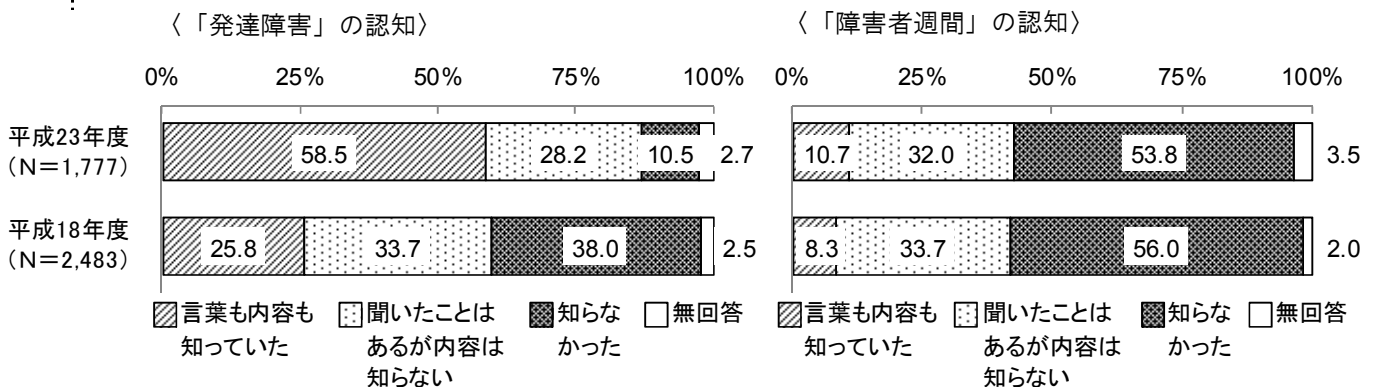
「発達障害」を「言葉も内容も知っていた」人は58.5%で、平成18年度と比較すると倍以上の割合となっている。一方、「高次脳機能障害」「ユニバーサルデザイン」の言葉も内容も知っていた割合は2割台、「障害者週間」では約1割にとどまっている。

問30 あなたは、障害者福祉に関する次の言葉を知っていましたか。(あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○印)



■ 図5-2 障害者福祉に関する言葉の認知(平成18年度調査との比較)

- ◇「発達障害」を「言葉も内容も知っていた」割合は平成18年度から倍以上に増加し、「知らなかった」割合は38.0%から10.5%へと大きく減少している。
- ◇「障害者週間」の認知度は、平成18年度からほとんど変わっていない。



※「発達障害」…… 自閉症や学習障害、注意欠陥多動性障害などのことで、先天性の脳の機能障害が原因と言われ、外見上分かりにくい障害です。現在、発達障害などで特別な教育的支援を必要とする児童生徒は、通常の学級に約6%の割合で在籍している可能性があるとされています。

※「高次脳機能障害」…… 交通事故や頭部のけが、脳卒中などで脳が部分的に損傷を受けたことにより、記憶・注意・思考・言語などの機能に障害を抱え、日常生活に支障を来す状態をいいます。手足の運動機能障害と異なって、外見上分かりにくい障害です。

※「ユニバーサルデザイン」…… 特定の人達のバリア(障害、障壁、不便など)を取り除く「バリアフリー」の考え方をさらに進め、能力や年齢・国籍・性別などの違いを越えて、すべての人が暮らしやすいように、まちづくり・ものづくり・環境づくりなどを行っているというのが「ユニバーサルデザイン」の考え方です。

※「障害者週間」…… わが国では、国民の障害者問題についての理解と認識を深めるために、国連で「障害者の権利宣言」が採択された1975年12月9日にちなんで、12月3日から9日までを「障害者週間」と定めています。



◆属性別特徴

【性別】「発達障害」を「言葉も内容も知っていた」割合は、男性より女性の方が高い。

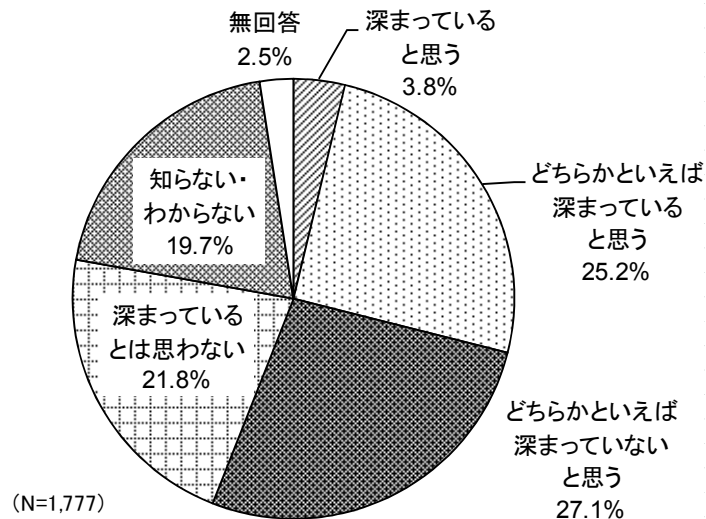
【性別・年齢別】「発達障害」を「言葉も内容も知っていた」割合は女性の30～40歳代で7割を超えている。  
「ユニバーサルデザイン」を「言葉も内容も知っていた」割合は40歳代で男女ともに3割を超えている。

	標本数 (票)	(ア)発達障害 (%)				(イ)高次脳機能障害 (%)				
		知言葉も 内容も 知っていた	はあ聞 知る いた ら が た な 、 こ い 内 と 容 は	知 ら な か っ た	無 回 答	知言葉も 内容も 知っていた	はあ聞 知る いた ら が た な 、 こ い 内 と 容 は	知 ら な か っ た	無 回 答	
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,777)	58.5 (1,040)	28.2 (502)	10.5 (187)	2.7 (48)	23.6 (419)	31.5 (559)	41.6 (739)	3.4 (60)	
性別										
男性	826	50.8	32.3	13.2	3.6	21.4	32.3	42.1	4.1	
女性	951	65.2	24.7	8.2	1.9	25.4	30.7	41.1	2.7	
性別×年齢										
男性:20歳代	90	52.2	33.3	13.3	1.1	22.2	25.6	51.1	1.1	
男性:30歳代	142	64.1	20.4	12.7	2.8	26.8	28.2	42.3	2.8	
男性:40歳代	132	59.8	30.3	6.8	3.0	23.5	34.1	38.6	3.8	
男性:50歳代	160	48.1	34.4	15.6	1.9	21.9	34.4	41.9	1.9	
男性:60歳代	210	41.4	37.1	14.8	6.7	17.1	33.3	41.9	7.6	
男性:70歳以上	92	42.4	38.0	15.2	4.3	18.5	37.0	39.1	5.4	
女性:20歳代	125	64.0	26.4	8.8	0.8	22.4	29.6	47.2	0.8	
女性:30歳代	150	79.3	16.7	2.0	2.0	29.3	30.7	37.3	2.7	
女性:40歳代	187	75.4	18.7	4.3	1.6	27.8	35.8	34.2	2.1	
女性:50歳代	197	67.0	22.3	9.1	1.5	26.9	28.4	42.6	2.0	
女性:60歳代	193	56.5	33.2	8.3	2.1	25.4	30.1	42.0	2.6	
女性:70歳以上	99	39.4	34.3	22.2	4.0	16.2	28.3	47.5	8.1	
	標本数 (票)	(ウ)ユニバーサルデザイン (%)				(エ)障害者週間 (%)				
		知言葉も 内容も 知っていた	はあ聞 知る いた ら が た な 、 こ い 内 と 容 は	知 ら な か っ た	無 回 答	知言葉も 内容も 知っていた	はあ聞 知る いた ら が た な 、 こ い 内 と 容 は	知 ら な か っ た	無 回 答	
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,777)	21.7 (385)	23.2 (413)	51.0 (907)	4.1 (72)	10.7 (190)	32.0 (569)	53.8 (956)	3.5 (62)	
性別										
男性	826	22.3	22.8	50.2	4.7	11.0	34.0	51.0	4.0	
女性	951	21.1	23.7	51.7	3.5	10.4	30.3	56.3	3.0	
性別×年齢										
男性:20歳代	90	27.8	21.1	50.0	1.1	12.2	27.8	58.9	1.1	
男性:30歳代	142	29.6	18.3	49.3	2.8	12.0	27.5	57.7	2.8	
男性:40歳代	132	33.3	25.8	37.1	3.8	15.2	39.4	41.7	3.8	
男性:50歳代	160	24.4	23.1	49.4	3.1	10.0	37.5	50.0	2.5	
男性:60歳代	210	12.9	21.9	57.1	8.1	8.6	36.7	48.6	6.2	
男性:70歳以上	92	7.6	28.3	56.5	7.6	9.8	30.4	53.3	6.5	
女性:20歳代	125	32.0	18.4	48.0	1.6	13.6	21.6	64.0	0.8	
女性:30歳代	150	27.3	25.3	44.7	2.7	10.0	31.3	56.0	2.7	
女性:40歳代	187	31.0	25.7	41.7	1.6	10.7	37.4	50.3	1.6	
女性:50歳代	197	20.8	23.4	53.8	2.0	12.7	27.4	57.4	2.5	
女性:60歳代	193	9.8	24.9	61.1	4.1	5.7	31.1	59.6	3.6	
女性:70歳以上	99	2.0	22.2	63.6	12.1	11.1	30.3	49.5	9.1	

(4) 発達障害についての社会の理解

発達障害について社会の理解が『深まっている』という人は3割弱の回答。

問 31 発達障害のある人が生活していくためには、まわりの理解が重要ですが、あなたは、発達障害について社会の理解は深まっていると思いますか。(あてはまる番号に1つだけ○印)



◆属性別特徴

【性別】性別で回答傾向に差は見られない。

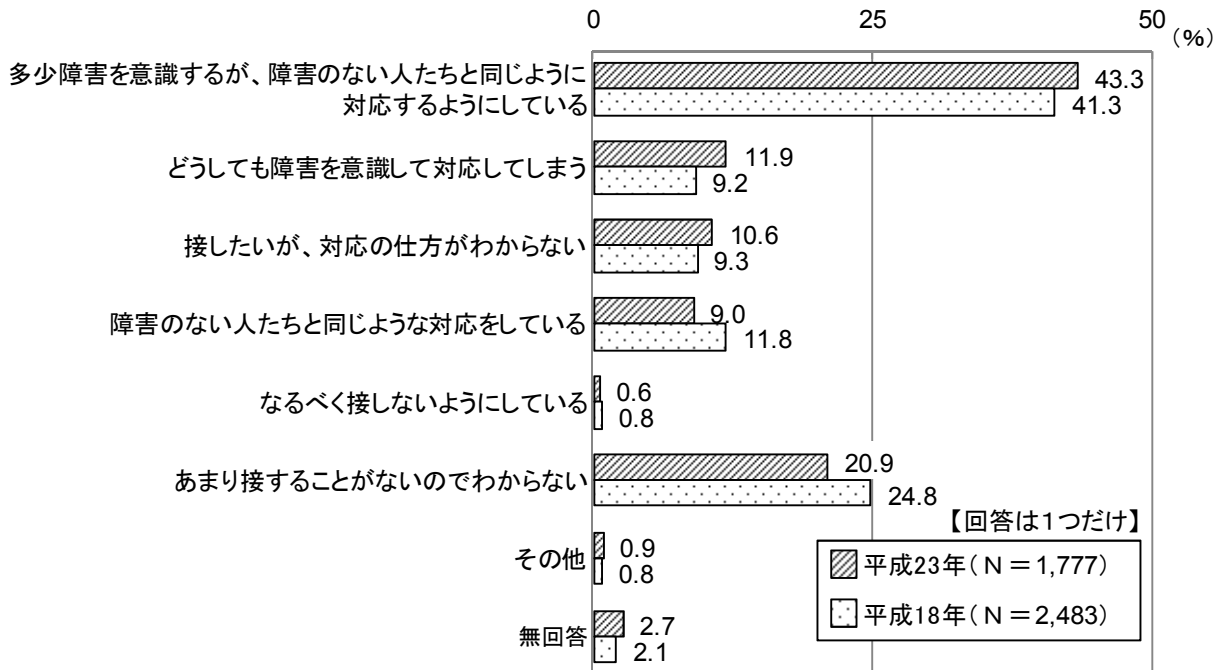
【性別・年齢別】社会の理解が『深まっている』という割合は男性 70 歳以上で特に高く、『深まっているとは思わない』は男性、女性ともに 30～50 歳代で5割を超えて高い。

	標本数 (票)	発達障害についての社会の理解 (%)					
		深 ま っ て い る と	ど ち ら か と い え ば 深 ま っ て い る と 思 う	ど ち ら か と い え ば 深 ま っ て い な い と 思 う	深 ま っ て い る と 思 わ な い	知 ら な い ・ わ か ら な い	無 回 答
全 体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,777)	3.8 ( 67)	25.2 ( 447)	27.1 ( 481)	21.8 ( 388)	19.7 ( 350)	2.5 ( 44)
性 別							
男性	826	3.9	25.5	26.8	21.4	20.0	2.4
女性	951	3.7	24.8	27.3	22.2	19.5	2.5
性 別 × 年 齢							
男性:20歳代	90	3.3	25.6	20.0	23.3	26.7	1.1
男性:30歳代	142	4.2	19.7	25.4	28.2	21.1	1.4
男性:40歳代	132	2.3	22.7	33.3	24.2	15.2	2.3
男性:50歳代	160	2.5	22.5	32.5	21.9	18.1	2.5
男性:60歳代	210	4.8	28.1	25.2	16.2	21.4	4.3
男性:70歳以上	92	6.5	38.0	19.6	16.3	18.5	1.1
女性:20歳代	125	2.4	23.2	32.8	16.8	24.0	0.8
女性:30歳代	150	2.7	26.7	25.3	27.3	15.3	2.7
女性:40歳代	187	3.2	23.5	28.9	29.9	12.8	1.6
女性:50歳代	197	3.0	21.3	31.5	24.4	17.3	2.5
女性:60歳代	193	3.1	29.5	23.3	15.0	25.9	3.1
女性:70歳以上	99	10.1	24.2	20.2	16.2	24.2	5.1

(5) 障害のある人への接し方

「多少障害を意識するが、障害のない人たちと同じように対応するようにしている」が43.3%で最も多く、その傾向は平成18年度と大きな差はない。

問 32 障害のある人が日常生活を送ったり、社会的な活動に参加するには、周囲の人たちの支援が必要です。障害のある人への接し方について、最も近いと思うものを選んでください。  
(あてはまる番号に1つだけ〇印)



◆属性別特徴

【性別】、【性別・年齢別】回答傾向に目立った差は認められない。

	標本数 (票)	障害のある人への接し方 (%)							
		て同障 いじ害 るよの うじ害 ない 対人 応た をち しと	すちが ると、 よ同障 うじ害 ない しうな い対人 る応	多 少障 害を 意識 する	ど うし うじ 害を 意識 して 対 応す る	仕接 方し がた わい かが ら、 ない 対 応の	うな にる しべ てく い接 する し ない よ	なあ いま のり で接 わす かる らこ ない が	そ 他
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,777)	9.0 (160)	43.3 (769)	11.9 (212)	10.6 (189)	0.6 (11)	20.9 (372)	0.9 (16)	2.7 (48)
性別									
男性	826	8.0	41.8	13.9	11.6	0.6	20.2	0.8	3.0
女性	951	9.9	44.6	10.2	9.8	0.6	21.6	0.9	2.4
性別×年齢									
男性:20歳代	90	14.4	32.2	12.2	12.2	-	26.7	1.1	1.1
男性:30歳代	142	7.0	41.5	13.4	7.7	2.1	24.6	-	3.5
男性:40歳代	132	4.5	45.5	12.9	12.9	-	20.5	1.5	2.3
男性:50歳代	160	8.1	45.6	13.1	13.8	-	15.6	1.3	2.5
男性:60歳代	210	9.5	39.0	14.8	10.5	0.5	21.0	-	4.8
男性:70歳以上	92	4.3	45.7	17.4	14.1	1.1	13.0	2.2	2.2
女性:20歳代	125	15.2	42.4	8.8	12.0	2.4	16.8	1.6	0.8
女性:30歳代	150	10.0	49.3	10.0	8.7	0.7	16.7	2.0	2.7
女性:40歳代	187	8.6	45.5	11.8	11.2	0.5	19.8	0.5	2.1
女性:50歳代	197	7.1	45.7	11.2	10.2	0.5	21.3	1.5	2.5
女性:60歳代	193	8.8	43.0	10.4	8.3	-	26.9	-	2.6
女性:70歳以上	99	13.1	39.4	7.1	8.1	-	28.3	-	4.0

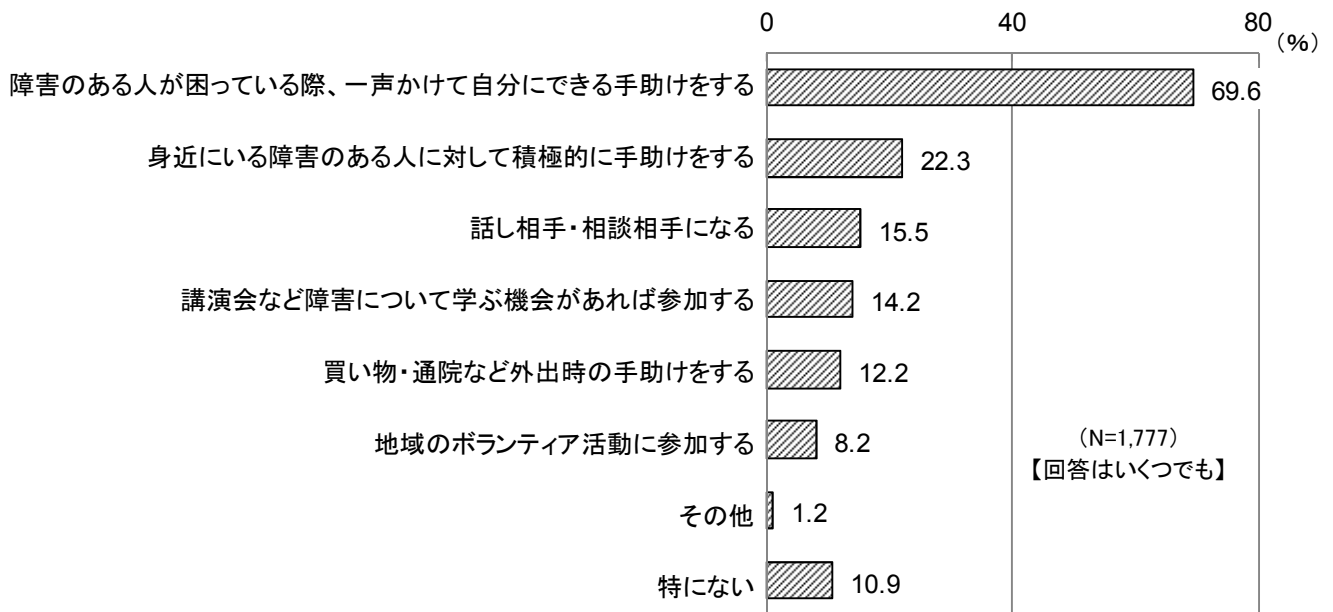


## 5－2 今後の障害者福祉について

### (1) 自分自身にできること

「障害のある人が困っている際、一声かけて自分ができる手助けをする」には約7割の人が回答。  
2番目に割合の高い「身近にいる障害のある人に対して積極的に手助けをする」は2割強の回答。

問 33 障害のある人が社会参加の機会を広げるために、あなた自身にできると思われることは何ですか。(あてはまる番号にいくつでも○印)





◆属性別特徴

【性別】「障害のある人が困っている際、一声かけて自分にできる手助けをする」「講演会など障害について学ぶ機会があれば参加する」の割合は女性の方が高くなっている。一方「特にない」の割合は男性の方が高い。

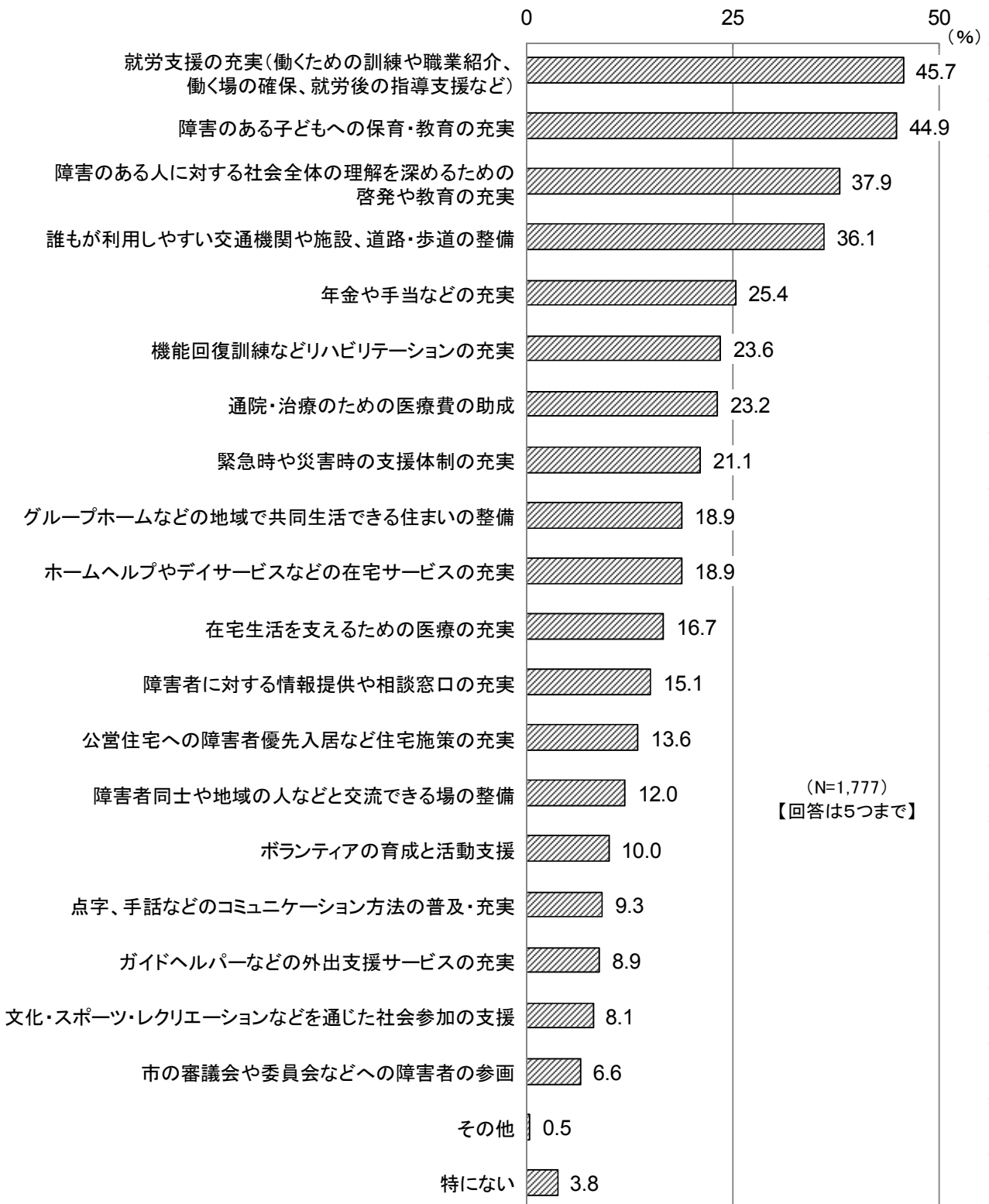
【年齢別】「障害のある人が困っている際、一声かけて自分にできる手助けをする」の割合は50歳代でやや高く、20歳代でやや低い。

		標本数 (票)	障害のある人の社会参加の機会を広げるためにできること (%)								
			る際、障 手、害 助一の け声ある をかける る人が 自分で できる	話し相 手・相 談相手 になる	る対身 し近 てに積 極的障 害のあ る人に 助ける を人に する	手助け をす る	買物・ 通院 など外 出時の	講演会 などが あれば 参加す る	参加の ポラン ティア 活動に	その他	特に ない
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,777)	69.6 (1,237)	15.5 ( 275)	22.3 ( 397)	12.2 ( 216)	14.2 ( 252)	8.2 ( 146)	1.2 ( 21)	10.9 ( 194)	3.0 ( 54)
性別	男性	826	64.0	16.9	22.2	12.2	10.8	8.5	0.7	14.2	3.5
	女性	951	74.4	14.2	22.5	12.1	17.1	8.0	1.6	8.1	2.6
年齢別	20歳代	215	60.9	17.7	25.6	15.3	12.6	8.4	2.3	12.6	1.4
	30歳代	292	70.2	17.1	22.6	10.6	14.0	10.3	1.7	9.6	3.8
	40歳代	319	72.1	13.8	18.5	9.4	18.2	7.2	1.3	9.4	2.8
	50歳代	357	74.2	14.8	22.4	15.7	15.1	9.5	0.6	10.4	2.0
	60歳代	403	70.2	13.4	21.1	11.2	12.4	7.4	0.5	11.9	3.7
	70歳以上	191	64.4	18.8	27.2	11.0	11.5	5.8	1.6	12.6	4.7
性別× 年齢	男性:20歳代	90	56.7	18.9	26.7	10.0	5.6	10.0	2.2	17.8	2.2
	男性:30歳代	142	59.9	15.5	19.7	8.5	14.1	9.2	0.7	16.9	4.2
	男性:40歳代	132	70.5	17.4	18.2	11.4	10.6	3.8	-	12.1	3.0
	男性:50歳代	160	68.8	18.8	26.3	15.6	11.3	10.6	0.6	10.6	1.9
	男性:60歳代	210	61.4	14.3	21.0	13.8	12.4	8.6	0.5	14.3	4.8
	男性:70歳以上	92	66.3	19.6	22.8	12.0	6.5	8.7	1.1	15.2	4.3
	女性:20歳代	125	64.0	16.8	24.8	19.2	17.6	7.2	2.4	8.8	0.8
	女性:30歳代	150	80.0	18.7	25.3	12.7	14.0	11.3	2.7	2.7	3.3
	女性:40歳代	187	73.3	11.2	18.7	8.0	23.5	9.6	2.1	7.5	2.7
	女性:50歳代	197	78.7	11.7	19.3	15.7	18.3	8.6	0.5	10.2	2.0
	女性:60歳代	193	79.8	12.4	21.2	8.3	12.4	6.2	0.5	9.3	2.6
	女性:70歳以上	99	62.6	18.2	31.3	10.1	16.2	3.0	2.0	10.1	5.1

(2) 障害のある人の自立と福祉の向上にむけて

市が重点的に進めるべきこととして、「就労支援」と「障害のある子どもへの保育・教育」の充実が4割を超えて上位に挙がっている。

問 34 今後、障害がある人の自立と福祉向上のための支援として、久留米市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。(あてはまる番号に5つまで〇印)





◆属性別特徴

【性別】「障害のある子どもへの保育・教育の充実」、「誰もが利用しやすい交通機関や施設、道路・歩道の整備」の割合は女性の方が、「社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」は男性の方が高い。

【性別・年齢別】「障害のある子どもへの保育・教育の充実」は女性の30～40歳代と男性の40歳代で、「啓発や教育の充実」は男性の70歳以上で高い割合となっている。

		標本数 (票)	障害のある人の自立と福祉向上のために久留米市が進めるべきこと (%)										
			啓発や教育の充実	障害のある子どもへの保育	市の審議会や委員会への参画	市の障害者の支援	就労支援の充実(働くための訓練や職業紹介、働く場の確保、就労後の指導支援など)	年金や手当などの充実	居など住宅への障害者優先	公共住宅への障害者優先	整備共同生活できる住まいの地域	グループホームなどの地域	機能回復訓練などリハビリ
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,777)	37.9 ( 674)	44.9 ( 797)	6.6 ( 117)	45.7 ( 812)	25.4 ( 451)	13.6 ( 242)	18.9 ( 336)	23.6 ( 420)	16.7 ( 297)	23.2 ( 413)	18.9 ( 335)
性別	男性	826	40.6	41.8	6.9	44.6	24.1	15.0	16.9	24.6	13.8	24.2	17.6
	女性	951	35.6	47.5	6.3	46.7	26.5	12.4	20.6	22.8	19.2	22.4	20.0
性別×年齢	男性:20歳代	90	41.1	41.1	5.6	35.6	21.1	5.6	16.7	23.3	12.2	14.4	14.4
	男性:30歳代	142	28.2	40.8	6.3	47.9	33.1	15.5	16.9	21.1	9.9	23.2	15.5
	男性:40歳代	132	37.9	51.5	6.1	50.8	22.0	15.9	11.4	17.4	14.4	25.0	18.2
	男性:50歳代	160	48.1	40.0	5.6	47.5	26.3	15.6	20.6	25.6	15.6	29.4	18.8
	男性:60歳代	210	38.1	39.0	6.7	44.3	21.9	16.7	16.2	31.0	14.8	26.7	17.1
	男性:70歳以上	92	55.4	39.1	13.0	34.8	17.4	17.4	20.7	25.0	15.2	19.6	21.7
	女性:20歳代	125	35.2	43.2	8.0	43.2	31.2	4.8	16.0	25.6	14.4	24.0	9.6
	女性:30歳代	150	30.0	58.0	9.3	49.3	28.7	11.3	20.0	18.7	15.3	22.7	20.0
	女性:40歳代	187	29.4	55.6	4.8	45.5	24.6	11.8	22.5	18.2	16.6	23.5	23.5
	女性:50歳代	197	41.6	44.7	8.1	52.8	24.4	11.2	20.3	20.8	26.4	16.2	19.3
女性:60歳代	193	35.8	44.0	2.6	48.2	24.4	17.1	21.8	29.5	23.3	24.4	19.7	
女性:70歳以上	99	44.4	34.3	6.1	34.3	29.3	18.2	22.2	25.3	14.1	26.3	28.3	
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,777)	8.9 ( 159)	15.1 ( 268)	9.3 ( 165)	12.0 ( 214)	10.0 ( 177)	8.1 ( 144)	21.1 ( 375)	36.1 ( 641)	0.5 ( 9)	3.8 ( 68)	2.9 ( 51)
性別	男性	826	9.0	15.1	7.3	12.8	11.4	8.7	20.5	33.3	0.2	5.0	3.1
	女性	951	8.9	15.0	11.0	11.4	8.7	7.6	21.7	38.5	0.7	2.8	2.6
性別×年齢	男性:20歳代	90	8.9	16.7	10.0	15.6	15.6	12.2	18.9	34.4	1.1	11.1	-
	男性:30歳代	142	7.0	14.1	7.0	16.2	9.9	9.9	22.5	35.9	0.7	7.7	2.1
	男性:40歳代	132	14.4	10.6	11.4	11.4	12.1	10.6	22.7	34.1	-	1.5	2.3
	男性:50歳代	160	11.3	15.0	8.8	10.6	13.8	4.4	20.6	35.0	-	1.9	1.9
	男性:60歳代	210	6.7	21.4	3.8	10.5	9.5	8.1	17.1	35.2	-	4.8	4.3
	男性:70歳以上	92	5.4	7.6	4.3	16.3	8.7	9.8	22.8	19.6	-	5.4	8.7
	女性:20歳代	125	4.8	13.6	19.2	16.8	12.0	10.4	23.2	41.6	-	4.8	2.4
	女性:30歳代	150	9.3	10.7	16.0	10.7	8.7	6.0	26.7	42.7	3.3	0.7	2.7
	女性:40歳代	187	9.6	14.4	11.2	8.6	7.0	9.1	26.7	41.7	-	2.1	1.6
	女性:50歳代	197	10.7	19.3	11.7	14.2	10.2	5.6	17.3	39.6	0.5	2.5	2.0
女性:60歳代	193	8.8	17.6	5.2	11.4	7.8	8.3	21.2	33.2	0.5	2.1	3.1	
女性:70歳以上	99	9.1	11.1	3.0	5.1	7.1	6.1	12.1	30.3	-	7.1	5.1	

## 考 察 —障害者福祉—

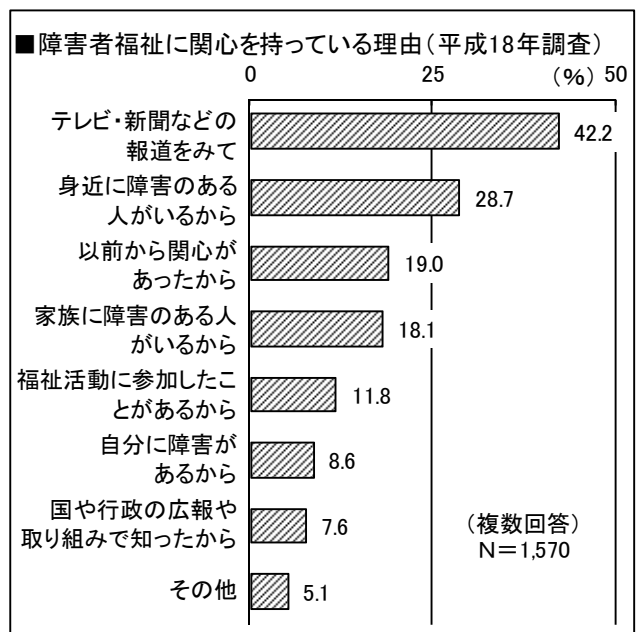
### ●障害者福祉に関心がある人は6割弱で、「関心がある」が減り、「わからない」が増える傾向

障害者福祉への関心度からみてみよう【p.93】。「非常に関心がある」11.2%、「ある程度は関心がある」47.6%を合計した「関心派」が58.8%となっているのに対し、「あまり関心はない」23.1%、「まったく関心はない」1.6%を合計した「無関心派」は24.7%、「わからない」14.4%となっている。過去の調査と比べると、「関心派」が減少し、「無関心派」は横ばい、「わからない」という人が増加している。「関心派」は、性別では、男性より女性の方が約5ポイント高い。これを性別・年齢別でみると、加齢にともない多様な「障害」が発生することからいわば当事者の問題として関心が高くなっていると思われるが、男性の60歳代が、40歳代より低いことが気になる。社会問題は、市民が「関心を持つ」ことから解決・改善へのプロセスが始まる。そういう意味では、年齢のわりに関心が低い「男性60歳代」の動向に注目したい。

同様の調査を行った平成18年の結果と比較してみよう。「関心派」は63.2%であり、今回は4ポイントほどの減少ではあるが、これを性別・年齢別でみると興味深い結果になる。すなわち、男性では60歳代が16ポイント、女性では20歳代が15ポイント、40歳代が8ポイント、いずれも大幅な減少をみている。

障害者福祉に関心を持つ人は、どのようなきっかけからであろうか【p.95】。「テレビ・新聞などの報道をみて」46.4%、「身近に障害のある人がいるから」41.1%の2項目がきわめて高い。特に、「身近に障害のある人がいるから」は平成18年調査では28.7%で、今回12ポイント増加した。「身近に障害のある人がいるから」を性別・年齢別でみると、男性では30歳代と70歳以上で、女性では30～40歳代、60歳代で高い。

下位の項目をみておこう。「障害者団体などの活動から」は、男女とも70歳以上で高く、「福祉活動に参加したことがあるから」は、男女30歳代、男性70歳以上で高くなっている。また、「市の広報および啓発事業（講演会など）で知ったから」は、女性70歳以上に次いで男性60歳代で高い。今後、今回関心度が大きく低下した「男性60歳代」への意識啓発が施策の課題になると思われるが、「市の広報および啓発事業」が関心のきっかけづくりになっているという調査結果を生かし、その一層の充実を図ることが必要である。全体的には、男女を問わず70歳以上の市民が多様な機会をきっかけとして障害者福祉への関心度を高めているすがたに注目したい。



● 「ノーマライゼーションのまちづくり」への肯定評価は減少、「発達障害」の認知度は急上昇

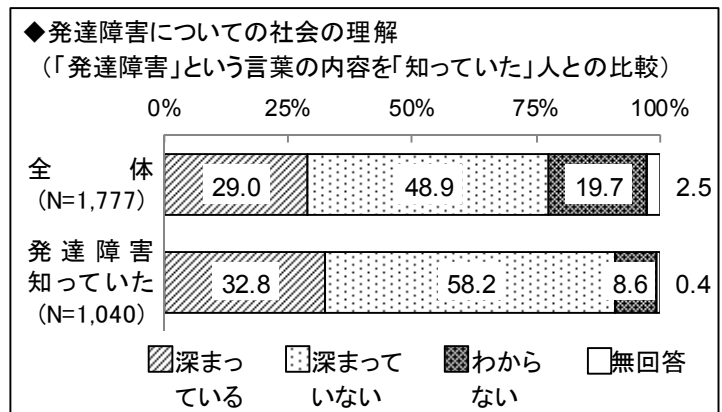
久留米市は「ノーマライゼーション」の考え方を活かしたまちづくりをしていると思うか、と市民の評価を尋ねた結果をみてみよう【p.96】。合計38.7%が肯定的な意見、合計23.6%が否定的な意見である。「わからない」は34.9%ときわめて多い。平成18年の結果では、肯定派46.1%、否定派25.3%、「わからない」26.7%で、今回肯定派が7ポイント減少している。否定派はあまり変わらず、「わからない」という回答にシフトしたかたちである。

障害者福祉に関する言葉の認知度をみてみよう【p.97】。このうち、「発達障害」は、「言葉も内容も知っていた」58.5%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」28.2%、「知らなかった」10.5%という認知状況である。平成18年の調査では、「内容を知っていた」25.8%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」33.7%、「知らなかった」38.0%という結果で、「知らなかった」に注目すると、28ポイントもの減少である。「言葉も内容も知っていた」は、男性(50.8%)より女性(65.2%)の方が14ポイントも高いが、ここでは男性でも50%を超えている事実注目すべきであろう。性別・年齢別でみると、男性では30歳代、女性では30～50歳代で高い。これに対し、「知らなかった」は、男性13.2%、女性8.2%という結果で、性別・年齢別でみると、男性では50歳代以上で高く、女性では70歳以上が22.2%と最も高い。小中学生の子どもを持つ世代で「発達障害」という言葉が浸透していることがわかる結果である。

「発達障害」については、平成14年文部科学省が実施した全国実態調査の結果、学習や生活面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が約6%程度の割合で通常の学級に在籍している可能性が示された。平成15年には、「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)」がまとめられ、一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う「特別支援教育」への転換がうたわれた。「発達障害」という言葉が登場して10年、その認知度は著しく高まったが、「発達障害」のある子どもたちを取り巻く社会の理解の現実はどうであろうか。

「発達障害」について、社会の理解状況を尋ねた結果をみてみよう【p.99】。合計29.0%が肯定的な意見、合計48.9%が否定的な意見である。「知らない・わからない」は19.7%である。高い認知度をみた性別・年齢別カテゴリーについて詳しくみると、男性30歳代は肯定派23.9%、否定派53.6%、女性30歳代は肯定派29.4%、否定派52.6%、女性40歳代は肯定派26.7%、否定派58.8%となっている。

発達障害について「言葉も内容も知っていた」と答えた市民についてみると、肯定派32.8%、否定派58.2%という結果で、全体の結果より否定派が9ポイントも高い。先にみたように、発達障害という言葉の認知度は、男性30歳代、女性30歳代・40歳代で非常に高い。こうした深い認識をもつ人たちのなかで、まだまだ社会の理解状況は十分ではないと判断している人が50%を超えているという調査結果は、今後発達障害をもつ子どもたちを社会全体でどのようにサポートしていけばいいか、市民自らが



考えるべき時期になったことを示している。そして、このことは「ノーマライゼーション」の考え方を活かしたまちづくりを進める久留米市にとって、特に重要な課題でもある。

●当事者と一般の市民とでは障害者福祉施策のニーズに差が見られる

障害のある人の自立と福祉向上のための支援施策を尋ねた結果をみてみよう【p.103】。「就労支援の充実」45.7%、「障害のある子どもへの保育・教育の充実」44.9%の2項目がきわめて高く、「障害のある人に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」37.9%、「誰もが利用しやすい交通機関や施設、道路・歩道の整備」36.1%の2項目が30%を超える高率の項目である。上位の4項目を整理すると、就労支援、教育・啓発、バリアフリーの3つがキーワードになっていることがわかる。

平成23年3月に実施された「久留米市障害者(児)実態調査」に基づき当事者のニーズをみると、身体障害者は「年金や手当などの充実」「通院・治療のための医療費の助成」「障害者にやさしいまちづくりの推進」、知的障害者は「年金や手当などの充実」「就労支援」「障害者にやさしいまちづくりの推進」、精神障害者は「年金や手当などの充実」「通院・治療のための医療費の助成」「就労支援」を上位3項目にあげている。当事者調査と比較すると、今回の市民意識調査では、「年金や手当などの充実」は25.4%、「通院・治療のための医療費の助成」は23.2%とそれほど高くはなく、当事者と市民の意識の差が浮き彫りになった結果である。

それでは、「ノーマライゼーション」の視点から市の取り組みを評価している市民(肯定派)と、そうではない市民(否定派)とでは、どのような支援施策の差異がみられるのであろうか。最も高い2項目「就労支援の充実」と「障害のある子どもへの保育・教育の充実」は、ほとんど差がない。こ

■障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと(上位5項目)  
【平成23年3月「久留米市障害者(児)実態調査」】

順位	身体障害者(児)		知的障害者(児)		精神障害者(児)	
	施策	割合	施策	割合	施策	割合
1位	年金や手当などの充実	50.6%	年金や手当などの充実	48.2%	年金や手当などの充実	50.0%
2位	通院・治療のための医療費の助成	32.4%	就労支援の充実(働くための訓練や職業紹介、働く場の確保など)	38.2%	通院・治療のための医療費の助成	46.6%
3位	障害者にやさしいまちづくりの推進	32.0%	障害者にやさしいまちづくりの推進	36.1%	就労支援の充実(働くための訓練や職業紹介、働く場の確保など)	38.1%
4位	障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実	24.5%	障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実	32.5%	障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実	33.0%
5位	就労支援の充実(働くための訓練や職業紹介、働く場の確保など)	21.4%	グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備	29.8%	障害者に対する情報提供や相談窓口の充実	31.3%

■「ノーマライゼーションのまちづくり」評価別にみた、市が進めるべき支援施策(上位10項目)

順位	支援施策	まちづくりの評価別	
		肯定派	否定派
1位	就労支援の充実	48.2%	49.4%
2位	障害のある子どもへの保育・教育の充実	48.6%	47.0%
3位	障害のある人に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実	43.2%	34.8%
4位	誰もが利用しやすい交通機関や施設、道路・歩道の整備	34.8%	40.6%
5位	年金や手当などの充実	26.6%	26.0%
6位	機能回復訓練などリハビリテーションの充実	26.6%	24.3%
7位	通院・治療のための医療費の助成	22.6%	26.0%
8位	緊急時や災害時の支援体制の充実	22.0%	22.2%
9位	グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備	20.7%	20.8%
10位	ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスの充実	21.3%	16.0%



れに対して、「啓発や教育の充実」は肯定派の方が8ポイント高く、「交通機関や施設、道路・歩道の整備」は否定派の方が6ポイント高くなっている。下位の項目ではあまり差はみられないが、「在宅サービスの充実」は肯定派の方が5ポイント高い。「ノーマライゼーション」のまちづくりを評価している市民は、「啓発や教育」を一層進めることによって市民の理解を深め、さらに「在宅サービスの充実」により障害のある人の自立支援を進めようと考えており、これに対し久留米市の現状を十分ではないと考える市民は、むしろ障害者の生活自立の前提となる「交通機関や施設、道路・歩道の整備」というバリアフリー政策を重視していることがうかがわれる結果となっている。